

## 日高山脈南西部における爆破地震動の観測 (新冠-様似測線)

爆破地震動研究グループ

(昭和 63 年 7 月 30 日受理)

### 要 旨

1984 年 9 月、北海道日高支庁の新冠町から様似町にかけての全長 66 km の測線において、人工地震観測による地下構造探査が行われた。この観測は、第 5 次地震予知計画に基づくものである。測線上に設けられた 5 点の爆破点からの地震波は 64 の臨時観測点で観測され、精度の高い多くのデータを得ることができた。この測線の中央部は、1982 年浦河沖地震の内陸部の余震域を横断しており、またこの部分は神居古潭変成帯に相当しているので、きわめて複雑な構造が予想される。今回の観測でも、各爆破点のレコードセクションは、いずれもこの複雑な構造をうかがわせる特徴を示している。

### 1. はじめに

第 5 地震予知計画によるプロジェクト“人工地震による深部構造探査の研究”の初年度の実験が行われた。このプロジェクトは、日本各地の大規模な地質構造線や近年起きた大地震の震源域の地下構造を明らかにすることを目的としている。今回の測線は、北海道日高支庁の海岸から 15 km ないし 40 km 内陸部へ入った、日高山脈西側の丘陵地帯の道路沿いに設けられた。

測線の中央部は神居古潭変成帯を斜めに横切っている。また、ここは 1982 年 3 月 21 日に発生した浦河沖地震 ( $M 7.1$ ) の内陸部の余震域でもあり (森谷他, 1983; IWASAKI et al., 1983), 非常に複雑な地下構造が予想されるところである。

ここでは、今回の実験の概要と観測された記録などの基礎的な資料を公表する。

### 2. 実験の概要

今回の実験は 1984 年 9 月, 27, 28 日の両日にわたり北海道日高支庁の新冠町から様似町にかけての全長 66 km の測線上で行われた。爆破点は新冠町に 1 点、静内町に 2 点、三石町に 1 点、様似町に 1 点の合計 5 点である。測線上の臨時観測点は 64 点であった。Fig. 1 に爆破点と観測点の位置を示す。Table 1 には爆破点の位置、薬量、爆破時刻などが、Table 2 には観測点の位置、観測者などが示されている。

爆破孔のボーリング、爆破作業などは、応用地質株式会社 (当時、株式会社応用地質調査事務所) の請負で行われた。爆破孔は直径約 13 cm, 深さ 60~80 m であり、内径 10.5 cm の鉄製ケーシングが挿入されている。そのなかで薬量 400~600 kg のダイナマイトが爆破された。爆破作業と同時に、地表付近の地震波速度を測定するための測定が、同社によって行われた。この測定では、各爆破点からほぼ 100 m 間隔に 6 台の地震計が配置

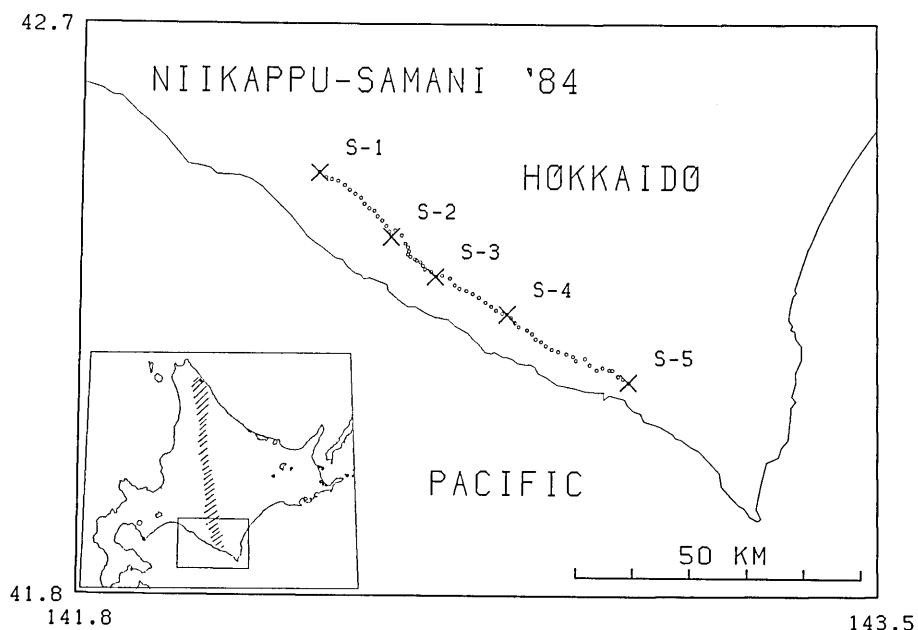


Fig. 1. A map showing positions of five shots and 64 temporary observation sites in the Niikappu-Samani Profile experiment, Hokkaido, Japan. Cross marks and small circles indicate the shot points and observation sites, respectively. The hatched area in the inserted map approximately indicates the Kamuikotan metamorphic belt.

Table 1. Shot times, locations and charge sizes of five explosions detonated in the experiment of Niikappu-Samani Profile.

Shot	Date	Time	Latitude	Longitude	Height (m)	Charge (kg)	Depth of Shot Hole (m)	
S-1	1984	Sept. 28	01:02:00.51	42°28'02.7"	142°18'27.4"	20	600	81
S-2		Sept. 27	01:12:01.03	42 22 03.3	142 27 45.6	54	500	71
S-3		Sept. 27	01:02:00.67	42 18 21.3	142 33 27.6	49	400	60
S-4		Sept. 27	01:22:00.30	42 14 47.9	142 42 42.4	40	500	71
S-5		Sept. 28	01:12:00.33	42 08 21.0	142 58 18.4	48	600	82

され、地震波が記録された。この測定で得られた各爆破点近傍の走時図を Fig. 2 に示す。

Fig. 1 および Table 2 に示した 64 点の観測点では、全点で Mark Products 社製 L-22D 型地震計（上下動、固有周波数 2.0~2.2 Hz, コイル抵抗約 2.2 KΩ）をダンピング定数約 0.7 で使用した。また一部の観測点では、同型の水平動（ラディアル方向）による観測も試みられた。従来からわれわれの観測では、全観測点で記録器の総合周波数特性が 0.5~30 Hz の範囲で平坦になるよう義務づけ、努力してきたが、今回の観測でもこの目標はほぼ達せられた。



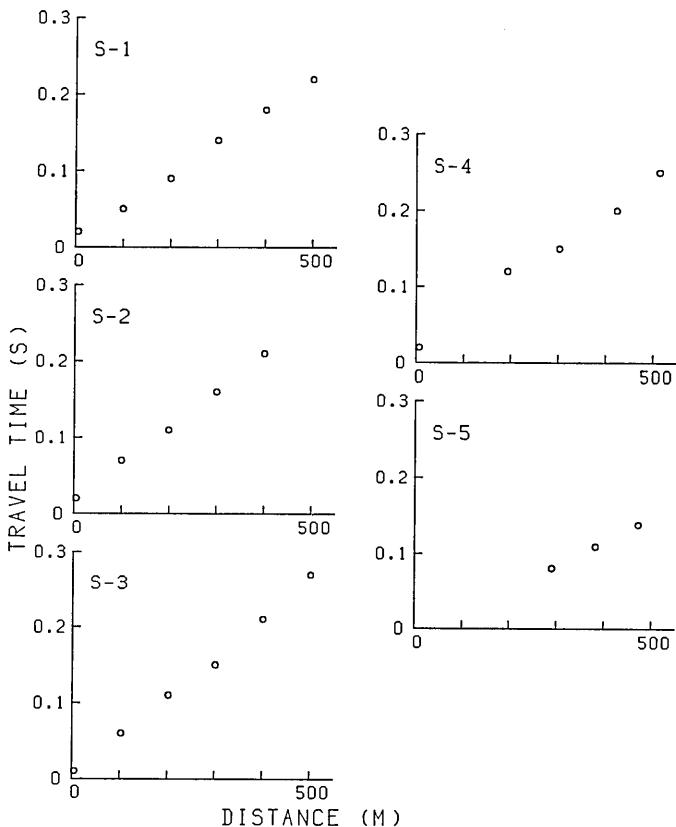


Fig. 2. Travel-time diagrams near the five shot points. The observations were conducted to determine velocities near the surface.

### 3. 観測結果

観測データは、従来の実験と同様に AD 変換された。ただし、今回からは 8 ビットではなく 12 ビットの AD 変換を行ったので、データの精度は格段によくなつた。AD 変換データのサンプリング周波数は 100 Hz で、各トレースの長さは 20 秒である。このデータを使用して作成したレコードセクションが Fig. 3 である。これらのレコードセクションから明らかなように、全体としては良好な記録が得られた。ただし、S-1 については爆破時刻の約 30 秒前にたまたま発生した浦河沖に震源を持つ小地震によって乱され、爆破点から 12 km 以上はなれた点では爆破記録をよく観測することができなかつた。

初動のみかけ速度は全体に遅く、卓越する周波数も従来の実験のものと比較すると低周波である。S-2 のレコードセクションの 22~32 km 付近には、小振幅の初動に続き大振幅の後続波が見られる。そして小振幅の波群は遠方ではほとんど見えなくなる。また、S-5 の記録も、遠方でシグナルが著しく小さい。S-3 および S-4 のレコードセクションを見ると、爆破点に近い S-3 と S-4 との間で比較的みかけ速度が大きく、原点走時（インターパルタイム）も小さくなっている。ここは神居古潭変成帯にあたつており、また 1982

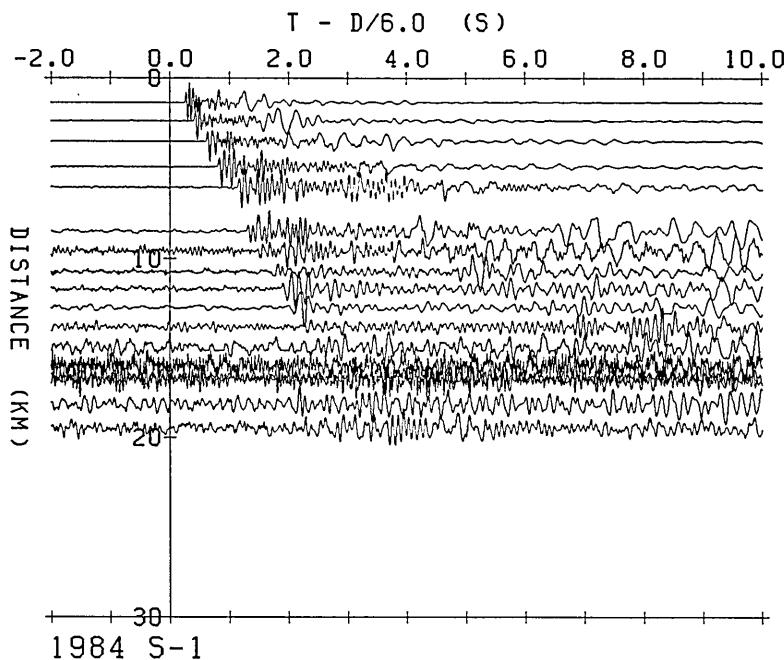


Fig. 3-1. A record section of shot S-1. Time axis is reduced by 6.0 km/s. Records of distant observation sites were disturbed by a small natural earthquake which occasionally occurred near the profile.

年浦河沖地震の内陸部の余震域でもある。こうしたレコードセクションの複雑さは、本測線下の地下構造がきわめて特異であることを示している。

観測された全データから、初動および後続波の走時の読み取りを行なった。従来と同様に、ノイズレベル、刻時精度および相の明瞭度などを考慮して、精度が  $\pm 0.01$  秒以内は A,  $\pm 0.03$  秒以内は B, それ以上は C をおよその目安としてランクづけを行った。S/N 比が悪く初動が不明瞭な場合には、確実に地震波が到着している時刻を読み取り、L によって表した。Table 3 に読み取りの結果を示す。+ は読み取った相の向きで、+ は地震が上向きであることを示す。

Fig. 4 は読み取り表をもとにして作った走時図である。従来の関東や中部地方などで得られたものに比べると、後続波の読み取りが多いこと、みかけ速度が遅いこと、さらに走時の原点走時が爆破によって大きく異なることなどが特徴である。

#### 4. おわりに

今回の実験で得られた資料は、浦河沖地震の震央域の一部および神居古潭変成帯を横切っているこの測線の下の構造が、これまでこの種の実験では経験しなかったような複雑なものであることを示している。得られた資料に基づく地下構造については、別に報告される。

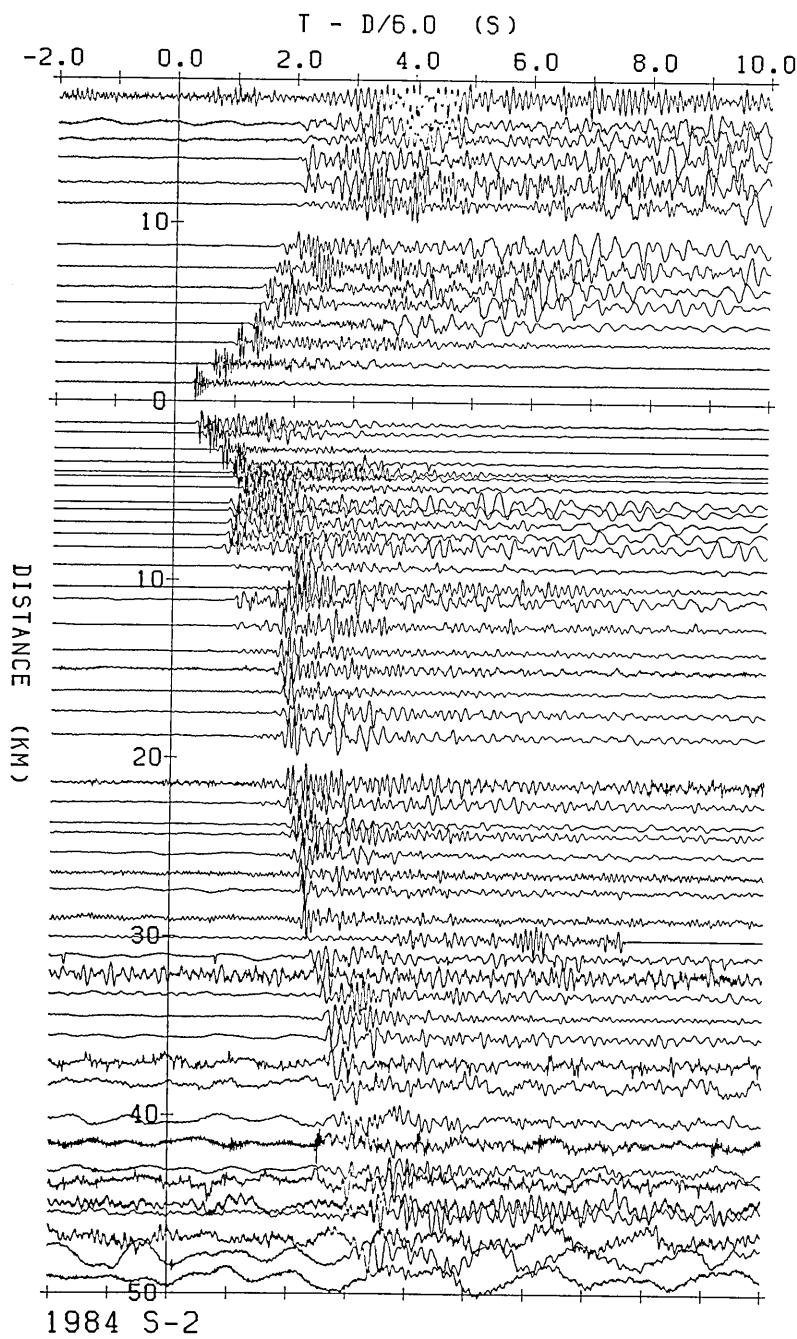


Fig. 3-2. A record section of shot S-2.

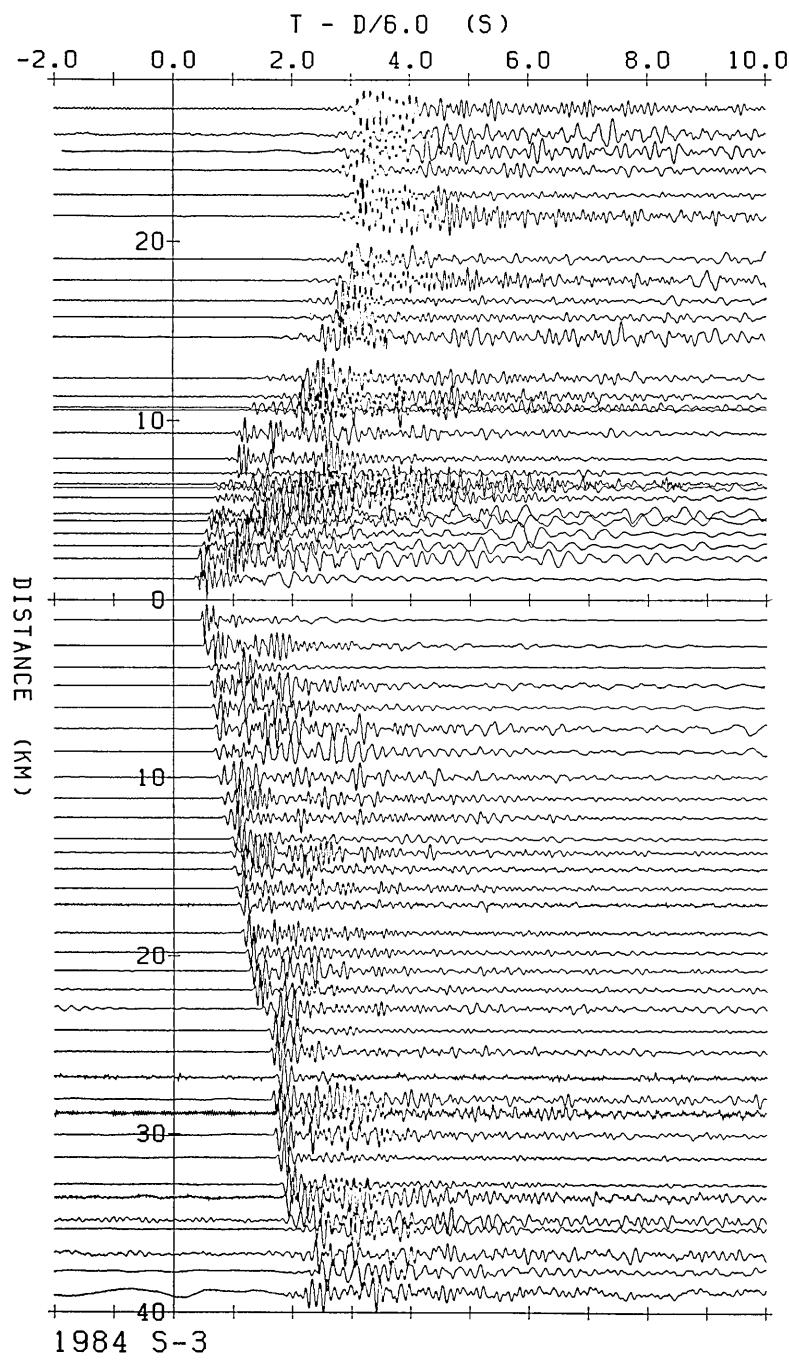


Fig. 3-3. A record section of shot S-3.

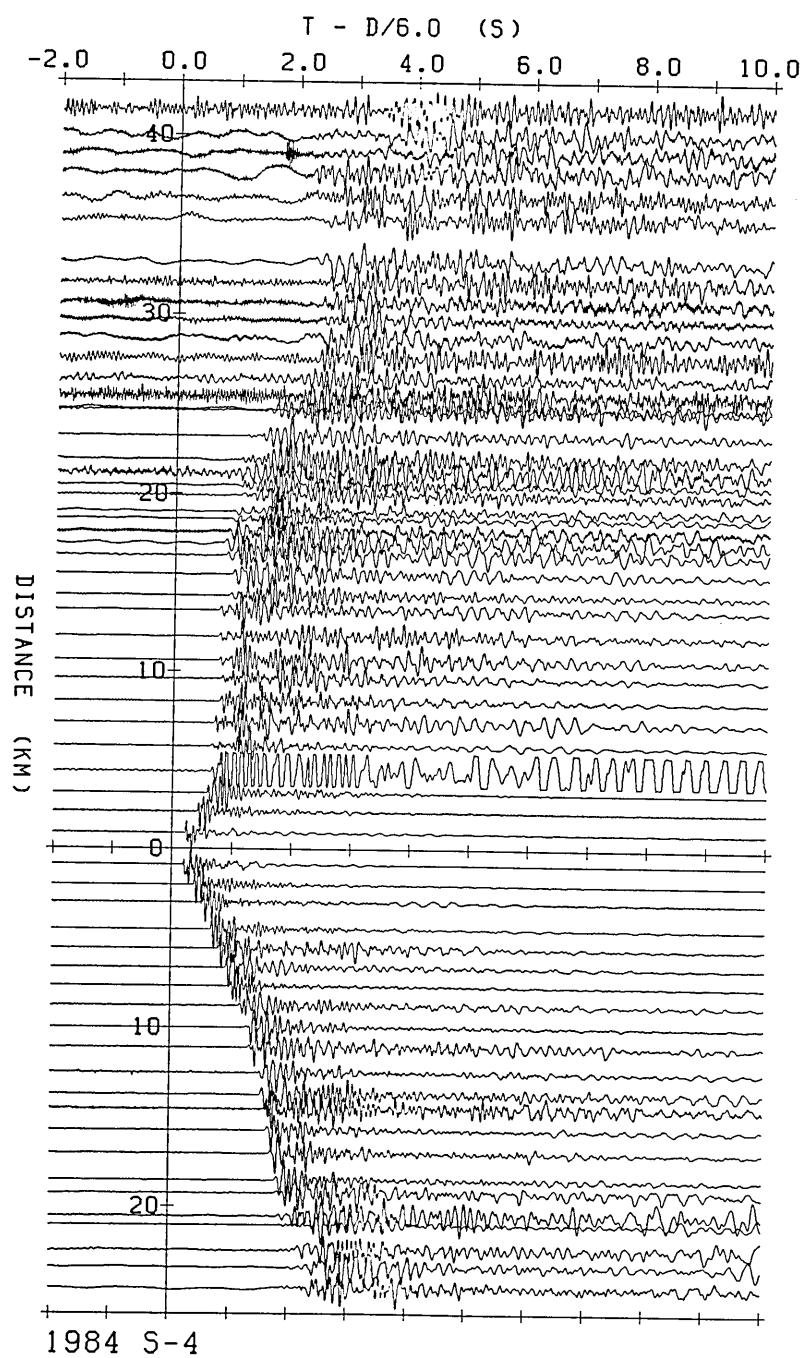


Fig. 3-4. A record section of shot S-4.

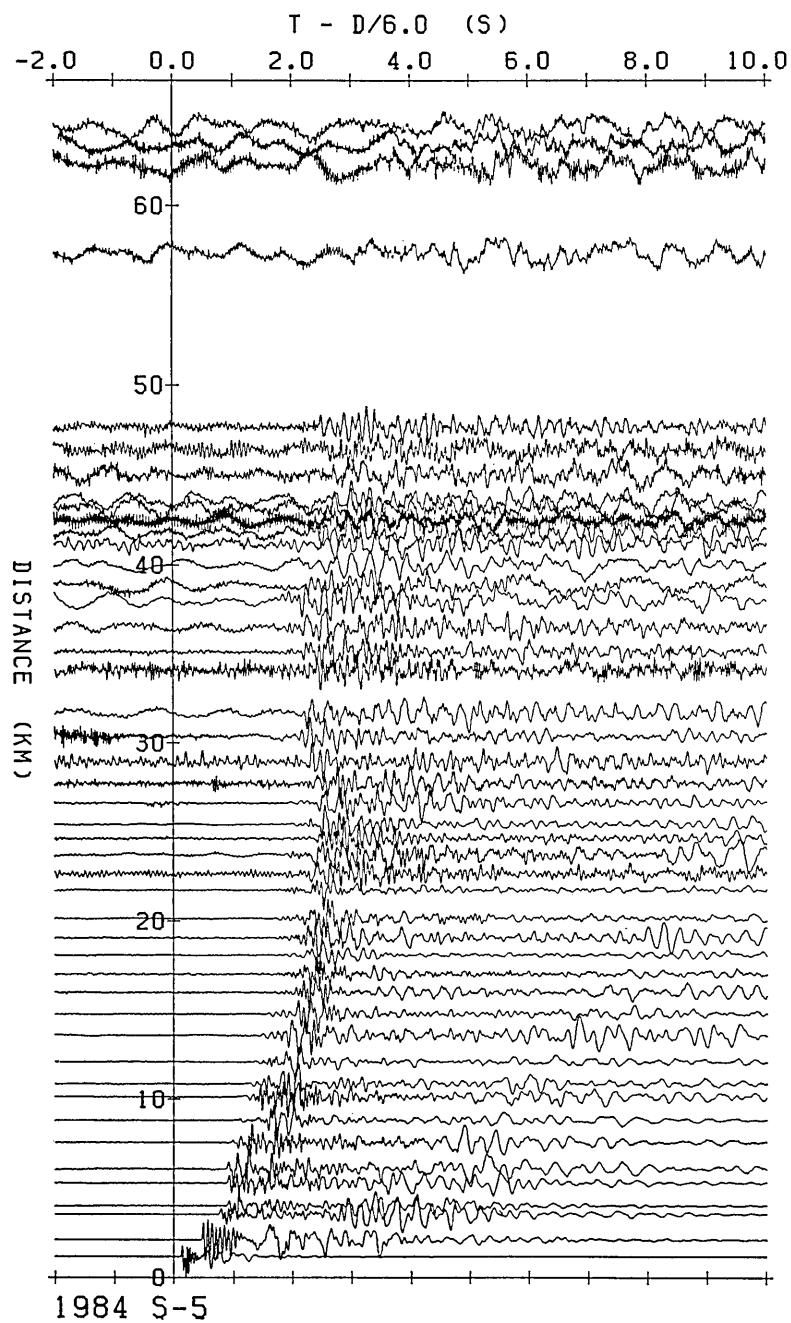


Fig. 3-5. A record section of shot S-5.











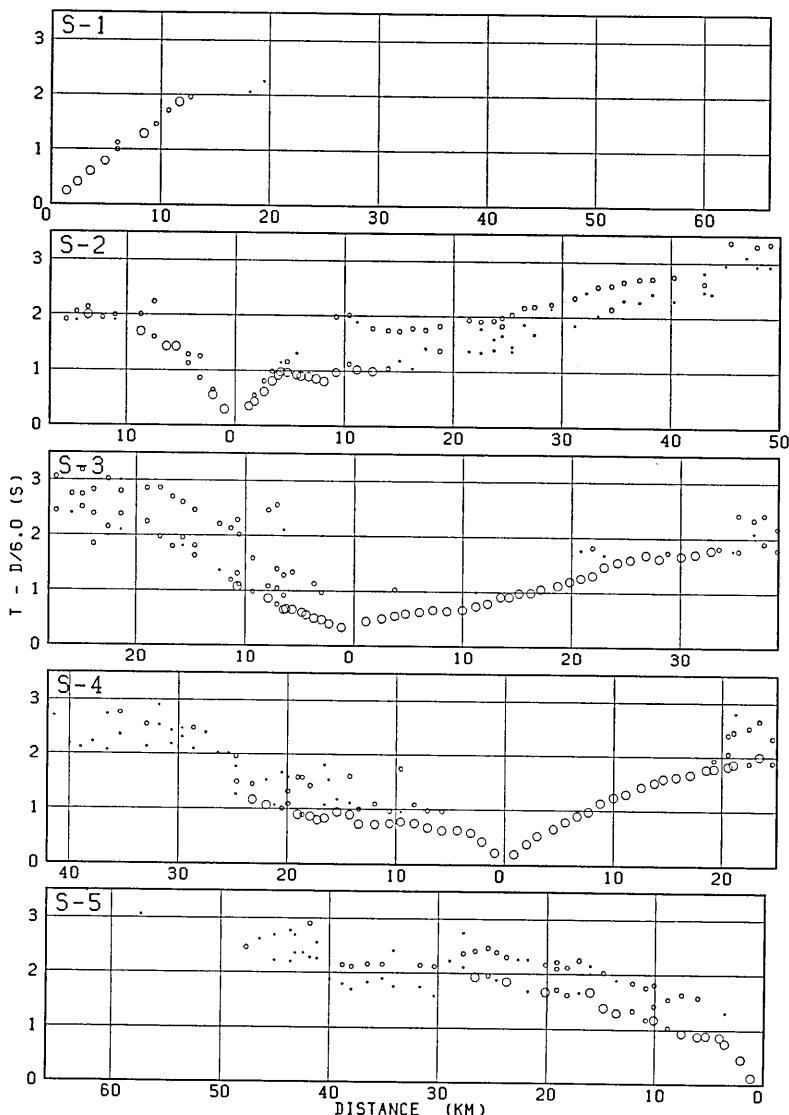


Fig. 4. Travel time diagrams for five shots. Time axis is reduced by a velocity of 6.0 km/s. Ranks of reading are indicated by sizes of circles. Large circles: A, middle-size circles: B, and small circles: C or L.

第4次地震予知計画中は、主として中部日本で地殻構造調査が行われたが（爆破地震動研究グループ、1988），第5次地震予知計画では、今回の日高地方のほか中央構造線，赤石構造線，糸魚川・静岡構造線，棚倉構造線，紀伊半島など全国の地域で探査が行なわれている。

## 謝　　辞

この実験の実施に際し、下記の機関などのご協力をいただいた。

爆破点および観測点所在の新冠町、静内町、三石町、浦河町、様似町。

浦河町田中牧場。

本実験は、東京大学地震研究所特別事業費により実施された。

## 文　　獻

爆破地震動研究グループ、1988、山梨県および静岡県における爆破地震動の観測（檍形-清水測線），  
地震研究所彙報、63, 1-22.

IWASAKI, T., N. HIRATA, K. SUYEHIRO, T. KANAZAWA, T. URABE, T. MORIYA, and S.  
SHIMAMURA, 1983, Aftershock Distribution of the 1982 Urakawa-oki Earthquake Deter-  
mined by Ocean Bottom Seismographic and Land Observations, *J. Phys. Earth*, 31,  
299-328.

森谷武男・宮町宏樹・加藤 進、1983、1982年3月21日浦河沖地震の前震・本震および余震の空  
間分布とそれらのメカニズム解、北海道大学地球物理学研究報告、42, 191-213。

*Explosion Seismic Observations on the Southwestern Foot  
of the Hidaka Mountains, Hokkaido, Japan  
(Niikappu-Samani Profile)*

RESEARCH GROUP FOR EXPLOSION SEISMOLOGY

Seismic refraction experiments were conducted in September, 1984 along a profile from Niikappu to Samani, on the southwestern foot of the Hidaka Mountains, Hokkaido, Japan. Five shot points and 64 temporary observation sites were arranged on this profile about 66 km long. In this paper, an outline of the experiments and some fundamental data such as record sections and travel times are presented. This profile crosses the Kamui-kotan metamorphic belt and the after-shock region of the 1982 Urakawa-oki earthquake, M7.1. Observed records clearly show the geological complexity of this area. Crustal structure inferred from these data will be given in a separate paper.